

泉穂の いまどき 恋愛講座



友達や同僚として出会って、最初は特にどうってことなかったのに、話をしていくうちに段々相手を意識し始めるという恋があります。

一方で、ほとんど出会った瞬間に、ときめいてしまう恋もあります。
みなさんはどちらのケースを多く経験しているのでしょうか？聞くところによると、人間は出会って10秒もあればほぼ正確に、自分と波長が合う相手かどうか判断できるのだと言われています。

たしかに、私自身のことを思い返してみても、第一印象がすくなく悪かったのに、段々好きになっていった。なんてことはほとんどなかったように思います。時として、逆のケース（実はほんでもない食わせ者だった）はあったように記憶しているけれど、そして、不思議なことに、恋愛に関しては、例えば、のちに私から情熱を引き起こすことになる男性を、ほとんど出会った瞬間に見分けることができるという特別な才覚に恵まれているようです。

その時は「なんだだろう？この感じは？大して好みの男のこつてわけでもないのに」なんてクールに感じていたわけですが、ところがしばらくたつと、やっぱり彼と恋に落ちていた。なんてことが、結婚前には何度もあったものでした。

もしかしたら、これは一目惚れの一環なのかもしれません。が、「惚れた！」というドキドキよりも、ただ何だか解からないけれどどきどきになる、心の中で鐘が鳴る感じだけがある、といったところでした。

そして、その予感めいたものは、3代前半には数年に一度は起こり、その度に心地よい刺激を感じさせてくれたものですが、最近はずっと。別に結婚したから、という訳でもなく、ただそういう相手に出会う機会がないということでしょう。

だいたい、クラブフェイムのスタッフを始め、私ときたら、毎年かなりの男性と出会っているくせに、そしてクラブフェイムのスタッフを始め、たくさんの魅力的な男性と話す機会もあるはずなのに、なぜか名刺交換に始まった相手とは、いつまでたっても「取り引き」関係のままという寂しいケースにはまってしまうのです。

世のOLたちはオフィス・ラブなんかもお盛んにやられているのでしょうか？だったら私だって仕事のパートナーと！と鼻息を荒くし、気合いを入れてクラブフェイムの忘年会に出かけたとしても、その手の中は私には起らないようです。

あのインスピレーションもまったく作動することなく、私を誠実な妻のままにさせていました。つい一月ほど前までは、ところが、あったんです。予感が！
ある居酒屋さんで、ウエイターの男のコと最初目が合った瞬間に、心臓が飛び出しそうなるほど鐘がなったのです。

ところがしばらくそんな事態を経験しなかった私は自分を見失ってしまひ、こういう時にどういう手を使えばいいのかわからなくなり、ただ「ああ、おいしそうなお男のコ」(たぶん、私よりは8歳くらいは年下でしょう)と思うだけで、なんにもアプローチできずにトボトボと帰ってしまったのでした。

以前なら、つまり20代前半の私なら、こういうチャンスは絶対に逃さなかったはず。同行の友人が驚くような素早さで、鮮やかな行動に出ていたものです。当たってくださるお、という感じ。

でも、私もさすがに年を重ね、保守的になつていたので、自分でも気づかないうちに、

そして、その男のコのことが気になりながらも、仕事でバタバタしていたりして、次にその店に一月後に行った時には、彼は辞めてしまつてもうそこにはいませんでした。ああ！実に5年ぶりのインスピレーションだったのに、逃してしまつた私、もちろん、彼をどうしようなんて下心はほとんどなかったけれど、久しぶりにドキドキしてみたら許されるでしょうか？ いま、恋というのは、何かを感じた時に、素早く行動に出なければタイミングを失つてしまつてしまうのだという教訓をしっかりと心に刻んでいます。

街を歩いていて、すれ違っただけなのに恋に近い気持ちを抱いてしまう時、あるいは私みたいなどこかのウエイターに予感を感じた時、どうか迷わず行動してください。そういうケースに「次の機会」はないのよ、いい？私のようになつてはいけません。本当に悔やんでるんだからね。

マンボカーパラダイス 今年こそ新車に乗ろう

まだ年が明けていませんが、明けてしまつていましたらおめでとうございます。どうか今年もマンボな年でありませうように、というわけで、新年の誓いを早速たてました。今手元にあるマンボな車を全部処分して、

変な音がするなんてのはフード開けたただけで簡単になおせてしまう。単純な○○とクルマは、運転が楽でイーネー。そして何よりもそのデザインがグー。トヨタのエスティマの前と後ろを逆にして、大きさを半分くらいにしたカンジ。空気抵抗もなんにも考えていなかった時代ですから、デザインがやういように好き勝手に造っていたんでしょ。そういうところが実にマンボなんですわ。

た良いお父さんの見本のような人が乗るクルマ。どこもマンボなクルマじゃないです。いいんです。誰がなんと言おうと、決めたんですから。来月このコラムで不景気なこの時期クルマを安く買う方法教えます！でもやりましょか？しかし今また何故新車を買うのか？深まる謎はまたしても次号に持越し！

MARUOKA IZUHO

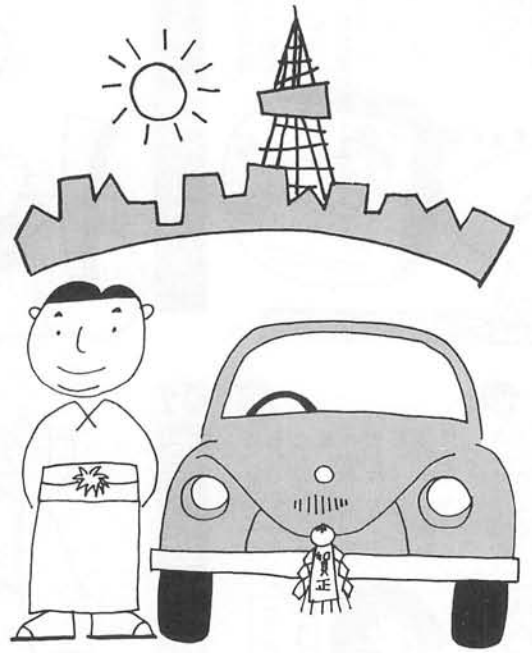
【プロフィール】1965年生まれ。同志社女子大学卒。株電通プロダクション勤務を経て、現在コピーライター。広告のほかFMラジオ番組のシナリオや出演もこなす。著書にあふれた無邪気な罪になる。(PHP研究所)、「キスマデ、待てない。(大和書房)など。

HAP HAZARD REMARKS

おれに
着だお
京都る。
送る。

ササイな情報

9



イラスト：佐藤アモール陽子

数年前には考えられなかったことだが、東京コレクションが終了する11月の後半になると、大阪、神戸でデザイナーのコレクションが集中して発表される。今年も11月の18、20日の3日間で12の違ったショーが行われ、東京のデザイナー達もこの時期に関西でミニコレクションを発表するケースも目立っている。

その中で「大阪コレクション」の一環として行われる海外デザイナーのショーをお手伝いして二年目になる。今回大阪でコレクションを発表したのは、モロッコ、ザルツブルグ（オーストリア）、ロンドンの3組のデザイナーだが、展示会では作品を発表しているものの、実質のショーは初めての経験となる彼ら同様、選考の重責を負うこちらサイドもステージ前は極度の緊張を強いられる。新人だけにどんな作品を作っているかわからない。特に、春にバリエーション

た作品を見たときは秋冬物だったが、今回のショーは春夏物である。秋冬物は面白いが、春夏物になるとまったくダメというヨーロッパのブランドは数知れない。「プレス」の立場で冷静に」と心の中では思っているが、「本当に大丈夫？」とこちらは気がでない。

そんなこちらの心配をよそに、ロンドンから参加したデザイナーのドノバンとマークは時差ボケも関係なく実に元気で、ショーの前日もクラブに遊びに行きたいというので、フランキー・ナックルがDJでQO0にちょうど来ていたので連れていくと、夜半中、大ハシヤキである。彼らにいわく「フランキーが大阪に来たときに僕たちも大阪に居られてラッキーだ」という調子。「おまえらホンマにショーは大丈夫何やろな」と思わずシリアスになるが、自分もフランキーの世界に御機嫌になってい

たというのが本当のところ。

実際のショーは思っていた以上に評判も良くホッとしたり。特にオーストリアの「マングレ・トウ」が玄人筋、モロッコのガブリエル・ハミルが消費者層、ロンドンの「レボリューション・ウィズ・ラブ」が専門学校生達に受けていたようだ。個人的にはガブリエルがシビラのアトリエで働いていた経歴からもその影響が強く感じられたが、それぞれ着やすい服に仕上がっていて、肩に力が入ったコレクションになっていない分、新人らしいショーだった。オーストリアという我々は、ヘルムート・ラングしか思い浮かばないが、ヨージ、コム・デ・ギャルソンの影響はこんなところにも、と思わせる「マルグレ・トウ」のアイデアには驚かされた。剥け落ちた、古びた感覚というのは、次のファッションの重要なキーワードだが、ゴム長を白の絵の具で塗って

新車を買おうというのです。まず大のお気に入りのファイアット6000マルチテラ。これは東京パノラママンボボーイズのノカサシフという曲のプロモーションビデオにも登場しているのですが、まさにこれぞ真正正路のマンボカー。ワンボックスのはしりでも言いますよ。いまから三十年も前のクルマで分割セパレートシートで6人乗り。濃いソリッドブルーの外装に、内装はレッドビニールレザー張り。さすがに、錆びていたり、やつれている箇所もあることにはありますが、そんなことはどうでも良くて、とにかくイカサマンボなクルマなのです。ほとんどこれは衝動買いでした。しかし古い割に手間はかかりません。なにせ部品の数が少ないですから、素人にもどこが具合悪いかわからずグワカッてしまう。ホースがはずれたとか、

つかりますか？

そして、ダットサン320。これもやたら古くて一九六四年製。ナンバーなんて品イジン始動の為の棒を突っ込む穴なんて開いて、しっかりと近未来来てたりして。うーんもう泣けてきちゃうわ。他にも、縦目のプリンスグロリアとか、ホンダのZなどなど、大切にしていたマンボカー達ともお別れ。大事に乗ってもらえる人と巡り合えるといイネ、なんてちよつとおセンチになってみたりもしています。新車買うんですからしょうがないです。で、新車新車ってどんなのを買おうかという、もったいつけてますがただのワンボックス。日産のパネットセラナなんです。どーです、この思い切りファミリアを意識し

PARADISE YAMAMOTO

【プロフィール】元東京パノラママンボボーイズのリーダー。富士重工業デザインセンターで、カーデザイナーとしても活躍していた。初代レガシィツーリングワゴン、アルシオーネS V Xなどのデザインを手掛ける。現在C S衛星放送スペースシャワーチャンネルの毎週金曜日BUM-TVで、パラダイス山元のマンボカーパラダイスを生放送中！マンボ画伯ソリマチアキラとともに東京ラテンムードテラックスという粋なバンドを結成。大晦日31日には神戸フィッシュダンスホールで初お目見えのライブがあるぞ！これは行かねば！

NODA TATSUYA

【プロフィール】1959年京都生まれ。流行通信社・WWDジャパン編集部デスク。東京中心のファッション情報のなかで、関西に留まり、10年以上にわたり世界の服飾産業を見聞している。91年より大阪コレクションの選考委員として、海外、新人のデザイナーのショーもサポート。